

議員氏名：一石 洋子

議案番号：議案第30号

案件名：令和8年度二宮町一般会計予算

討論内容：

私は、本議案に賛成の立場で討論いたします。

町の説明資料にあるように、当初の予算では、第6次総合計画後期基本計画の策定、公共施設等総合管理計画改定により、町の将来について検討する場面は確保されていたと考えています。本修正案で加味された、専門的なアドバイザーの招聘や審議会、ワークショップの効果は、これについてもあらかじめ織り込み済みと理解しておりましたが、このように幾分強調した予算にすることで可決への説得力を持つなら歓迎するというスタンスでした。

とにかく一刻も早く予算を通し、執行すべきです。この漠とした否決によって、修正案なき否決によって、行政の3度の予算書作成に係る行財政負担と、失った信頼の回復を心から求めます。

予定されていた4月のこども会議が中止になったことは、慙愧に堪えません。二宮らしい、町民団体と協働し、独自の、こども家庭庁の職員からも注目されていた、県内でも先進的なチャレンジの、2回目の発展形のチャンスでした。その他、住民団体の様々な創発的事業が大きなしわ寄せを受けました。行政の入札等の契約が遅れたことのダメージも聞いております。

今般の予算否決への違和感による怒りは、1ミリたりとも弱まりません。しかも今般、先ほどの質疑を聞いていて、再度否決の様相、可能性の様相があることに茫然としております。もし今回、予算否決になりましたら、予算編成という行政の根幹の専門的な部分で議会が暴走する事態となる、そういう可能性があります。被害者は町民です。行政職員は死ぬほど大変です。なぜこの4年の任期の最後になって修正案も出せないのか、大きな疑問です。

議員になって12年になろうとしますが、住民自治をうたう市民運動の議員としてスタートしたため、日本人にふさわしい民主主義を体現する政治の形、特に、この小さな町の政治に、この議会の仕組みが本当によき構造なのか。町村は必ずしも二元代表制を取らなくてもよいと、当初配布された議員必携にも明記されていたことから、これまでも何度も疑問を持ち続けてきました。

さらに、議員という立場から、普通の町民の方々が出会う何倍もの、この町をよくしようと身を賭して活動する方々に出会ってきました。村田町政の当初持たれた、東大果樹園跡地や国立小児病院跡地をどうする、あるいは、新庁舎についての、様々な専門家とともに学び合い、対話する、多様な町民ワークショップ、福祉の様々なカフェなどのコミュニケーションもありましたが、この間、立ち上がった複数のNPO法人や一社法人のボトムアップ、それが結実したのが、住民ファシリテーターによる気候市民会議でした。無差別抽出の1,000人にアクセスした上で持たれた会議、住民の方々のインテリジェンスや個性、職員と住民、そして、様々な人が、信頼関係の下、つながって対話するたたずまいに、常に心動かされてきました。

この小さな町の職員は、多くの町民の意見や苦情、相談の対応に多くの時間をかけています。町規模であることから、住民との距離が近いのです。そもそもこの町は、この数十年来、これは気候市民会議提言にもある言葉ですが、腹を割って、わいわいがやがやと、何よりもそれを支えていたのは、5校にあふれていた子どもたちだと思いますが、自治の学者の言葉を借りれば、群民的な自治力、インテリジェンスのポテンシャルのある町だったのではと想像するところです。

一方、現在、世界の混沌たる状況は、まさにジャングル状態で、ある意味、崩壊の時代に入った様相があります。気候危機は修復できない臨界のポイントに達するとの指摘もあり、資源争奪、戦争による生き残りを視野に、北欧福祉大国が徴兵制に踏み切るなど、国民の教養と見識ある政治参加が日本と世界の行く末を左右する、由々しいフェーズを迎えています。

この小さな町の自治は重要です。議会の在り方について真剣にコミットする限界に来ていることは明白です。市とは比較にならないほど低い歳費で働くフロントであります。まずは、未来を我が事としてコミットできる、働き盛りの子育て世代の優れた人材が広く副業として立候補を検討できるよう、予算審査でも申し上げましたが、3月議会、9月議会の日程の集中を避けるなどの研究も、すぐにできる対応策です。

市民会議という、多世代の住民が専門家と学び、政策提言する新しい政治の形と、子どもの人権という民主主義の根幹にコミットしてきた一連の町の動きを、私は評価しています。この政策を力強く推進いただきたい。行く行くは、本来の民主主義を生かすための、従来の議会制度の段階的な見直しに寄与すると考えます。

にのみや学園の中学生たちは、二宮町の未来について研究し、毎年、提言を続けてきました。すばらしいことで、広く町民と共有したい内容です。町長は毎回、その場に来られていたと聞いています。総合計画等、町の未来に係る計画策定に、この動きをぜひ関連づけていただきたい。多世代の住民や事業者が学者と学び、協議するプロセスは、まさに市民会議の発展形です。県外でも、これにコミットできた先進自治体は非常にまれなのです。

役場のみならず、学校教育現場では、全国的に、保護者からの相談にかなりのエネルギーをかけています。既存の学校制度と子どもたちの現状の乖離が元凶です。不登校児童生徒が40万人という最高値を更新する中、国の責任で喫緊で抜本的な改善が図られるべきですが、待ってられない状況は限界です。

今を生きる子どもたちのために、真鶴町や湯河原町で重要な動きが見えます。実は二宮は、もっと前から、先んじて、住民も議会も、これに根本的な大なたを振るうことを求めてきました。町長は、私の総括質疑の答弁で、研究すると明言しましたが、子どもたち一人一人を毎日力づける楽しい学校をつくる、このことに邁進する新年度であるように強く望みます。以上、賛成討論といたします。